

豚「デュロック種」を造成しています

福島県農業総合センター
畜産研究所肉畜グループ

1 はじめ

豚肉は現代の食卓には欠かすことの出来ない食材であり、食の安心安全への関心の高まりを受け、県内生産者による豚肉生産の意義はますます重要になってきています。しかし、近年の生産者の急激な減少に伴い種豚を供給する生産者も減少し、種豚を安定的に揃えることが難しくなっています。

当所においては、ランドレース種の系統豚「フクシマL2」を平成16年度から県内生産者に供給していますが、

2品種目として特に生産者から要望の多いデュロック種の造成を平成16年度から着手し、現在に至っています。

造成のコンセプトとしては、全国のデュロック種の改良動向に沿った産肉能力の改良を図り、飼いやすく安定した成績の出せる種豚群を造成し、県内生産者のデュロック種導入先の有力な選択肢の1つとなることを目標としています。

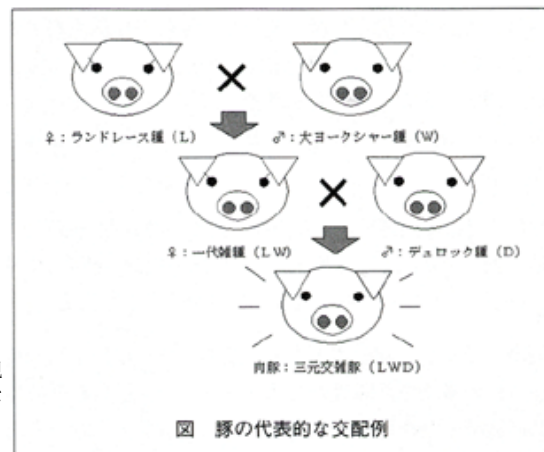
※解説①

三元交雑豚 (LWD) とデュロック種

デュロック種とは豚の品種の1つで、肉豚生産に広く用いられている品種です。県内に限らず、国内で生産される肉豚の多くは、父親がデュロック種(D)、母親がランドレース種(L)と大ヨークシャー種(W)の雑種(LW)です(図)。この肉豚は、3品種の雑種であることから、三元交雑豚(LWD)と呼ばれています。

雑種にするとその両親以上の能力を示すことが知られており、これを雑種強勢と呼びます。雑種強勢は強健性(丈夫さ)と繁殖能力(産子数、哺育能力)に強く現れます。ランドレース種と大ヨークシャー種は一般的に繁殖能力に優れているため、肉豚の母親となるLWは繁殖能力が非常に優れ、しかも丈夫であることから、母豚として大変好ましいものとなります。一方、肉豚の父親となるデュロック種は、一般的に発育や赤肉量などの産肉能力が優れています。

この結果、三元交雑豚(LWD)は、父親から優れた産肉能力の遺伝子を受け継ぎ、産子数が多く哺育能力に優れた丈夫な母親に産み育てられ、自身も雑種強勢で丈夫に育つということになります。雑種強勢は産肉能力に対してあまり現れないので、デュロック種には十分に高い産肉能力が求められます。



この結果、三元交雑豚(LWD)は、父親から優れた産肉能力の遺伝子を受け継ぎ、産子数が多く哺育能力に優れた丈夫な母親に産み育てられ、自身も雑種強勢で丈夫に育つということになります。雑種強勢は産肉能力に対してあまり現れないので、デュロック種には十分に高い産肉能力が求められます。

2 今までの経過

平成16年度に県外5農場から基礎豚を導入し、これらを交配して第1世代の子豚を生産しました。平成17年度は第1世代の子豚の産肉能力検定を行い、能力の高いものを新たな種豚として選抜し、これらを交配して第2世代の子豚を生産しました。平成18年度も前年度と同様に第2世代の子豚の検定、種豚の選抜、交配を行い、現在第3世代の子豚の生産に備えているところです。

産肉能力の指標として重要視されているのは、1日平均増体重(DG)、ロースの断面積(EM)、背脂肪の厚さ(BF)の3つで、日本養豚協会が定める豚産肉能力検定規程に基づき検定を行っています。第1世代の検定の結果、BFについては良好な成績であったので、DGとEMの改良を重点的にを行い、第2世代は第1世代と比較して十分な改良量を得ることが出来ました。



※解説②

閉鎖群育種

このような家畜改良の方法は、基礎豚導入以降は外部から豚を入れずに世代更新していくことから、閉鎖群育種と呼ばれています。この方法だと、各世代の中から能力の高い豚を選抜して次世代を生産するので、世代更新毎に能力向上が期待できると同時に、集団内での豚同士の血縁関係が徐々に増していくので、似たもの同士の集団になっていきます。

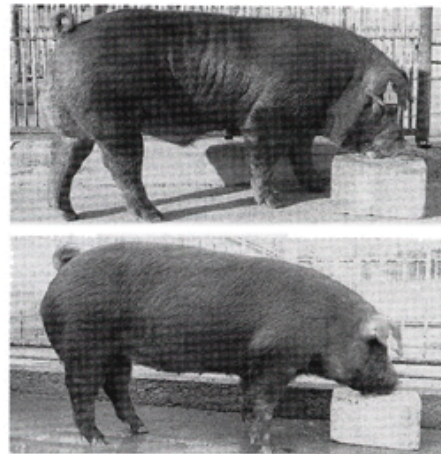
どのような分野でも、市場においては高品質で規格の揃ったものの生産が求められており、豚肉も例外ではありません。LWDによる三元交雑豚の生産においては、3つの各品種にこのような方式で改良を行った高能力で斉一性の高い種豚を用いることが、経済的に有利で品質の揃った肉豚の生産につながるようになります。

3 今後の予定

平成19年度も平成18年度と同様に第3世代の子豚検定・種豚選抜を行います。ここで一区切りとし、この種豚群から生産された子豚を県内生産者に譲渡していく予定です。従って、譲渡開始は平成20年の秋頃となりそうです。

平成20年度以降、つまり第3世代以降に生まれた子豚についても継続して検定を行い、維持種豚群や譲渡用豚の能力向上に努めていく予定です。また、譲渡先の生産者の肉豚成績をフィードバックし、能力的に不足している点があれば、外部からの優良種豚の導入により改良していくことも将来的には考えています。

現在造成中のデュロック種について、フクシマL2も併せましてどうぞよろしくお願い申し上げます。



▲第2世代の種豚（上が♂下が♀）